

# 警察官の女性蔑視、人権侵害 ゆるしていいのか? 女をなんやと思へん! ①

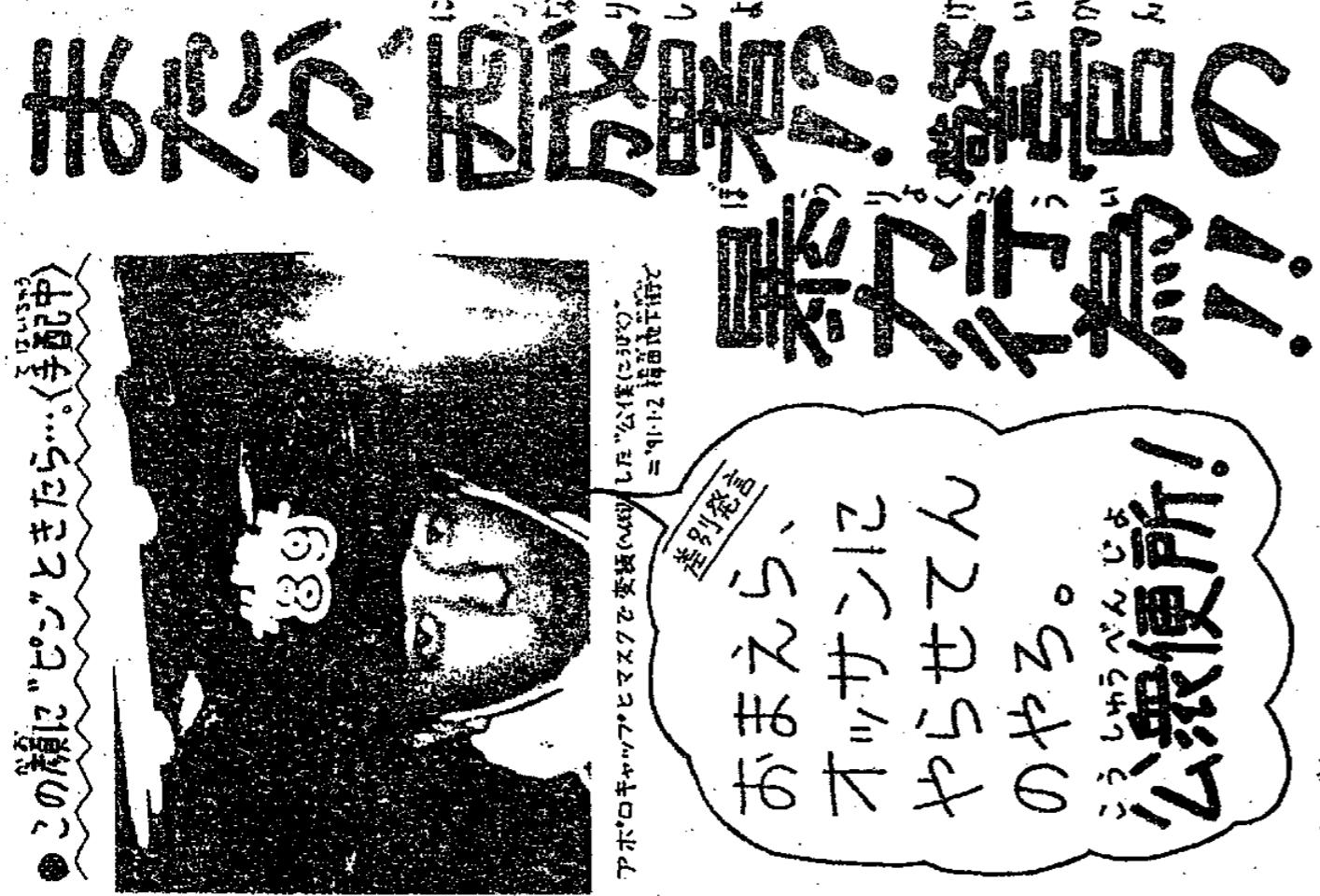
「オマエら、オッサンにやらせてんのやろ。公衆便所!」  
1月2日、福井県下の人民パトロール中。  
若い帽子に自マスクの私服警官が「私にソバを吐くように  
投げつけたサイトーのセリフ。」  
ゲレリ...。ホンマでケツやね。そんなことしか、いえへん?  
みんなコトバしが知らないの? 私だナビ"やない。仲間の  
オちゃんにも、Mちゃんにも、Mまにとも、あなたが"女"だから。  
ガリバは、「バス!」「チビーヘーブタ!」。そんなコドロで  
私たちを落としめる。皆で「あー!」。ニヤニヤ笑う。  
今までで、ガリはチライやただけど。なんにもしないオッちゃん  
たちを、舐みつけ。殴りつけするボリが"憎がたいた"。  
素手で固い固いジエラミンの盾を「帰れー!」。押しつける私  
たちではない。私たちの人権を復讐して。私心して犯されただけやない。  
ガリちゃんも復讐した。みかんを山でオッちゃんを侵した。いつば  
「ワニヨイ!」、叫ぶ少女子を侵した。私をあつたがくしてくいたオッちゃん  
たちで。私が愛したいたいとは大切だよ思ひと。せんぶ"せんぶ"ニシレ  
化した。さうも今日も。いつだつて立ちはだかるジエラ  
ミンの盾の前。私は脱げぬうちに立たねば。○のアラスチ  
クの盾。奥にある。自立も"ききす"いらねば。○のアラスチ  
クの盾? あんたらか? おんばじ"人間"や? それでは?  
なで"ジヤヌヌン"や。おで"情めつけてるん"や? 仕事やからか? 好きで?  
私も選りつけられか? 制服かい? ヘルメットも盾も警棒もせんぶ  
が生身の「公衆便所!」、といふんか。武器も防具もどちらも無い?  
○やガリ公が"みんまが"みんま。あのゲレリがサイド非人間や  
とは。できるこども思ひたくない。けれど、やっぱ! 今はアンラが"憎  
い。私たちが"みんま"。私の大好きな大切なモノを虫ラバおにぎと  
したり。"落"や、"落"、"落"つけ。落つかれて。落つかれて。落つかれて。  
私は今日の落まで忘れない。私は、今日の怒りを忘れない。

88

「オマエら、オッサンにやらせてんのやろ。公衆便所!」  
この街が好きで。この街の人柄、らしさ。いくつもあたかい  
笑顔やふかあいが"大き"きで。金柑食で落しはじめて2ヶ月。  
「オッちゃん、ごくうさん。みかん食べるか?」「裏いや3?。金コヒー費うた3か?」  
いつもオッちゃんが、声をかけてくれねど。さればヒドいことは、いへ  
んも聞いたことない。さりやあ。「ネーチャン、ワニヒコきあわへんか?」  
今既、いじ方にあたま3か?」「オッちゃんちが"かばさじ"といふへ。もう一、笑い  
させよ。複道サチカン"こい"のは、新宿でも極めてもどびでも同じこと。  
いじんばオッちゃんがいて、それにいじんな「悪い」をえてくれる。  
「おまえさん、私に、ほんたの髪の毛。一本。(かほせんか?)。さうやだ。  
人見パトロールに出発する月、後ろの通りから、小さな音で言ふこひできた  
オッちゃん。シダらうの黒い魔、ヨガニヨガ! 知り自分で、ますく  
私の顔を見て。「ワニも、もう少しで、体もいうこことかもん!」今日は、  
ワニも行きたいんだ。みんなといじりに行きたいんです。それがから  
おねーさんの髪の毛。一本、くれませんか?」。オッちゃんの真食ひ顔に  
おねがいでいかからんまよ。涙が出来うになつた。  
「私の髪の毛なんかどう。なんぼ"でもあげる。"」不思议なういひた  
かたいた。さう前に、オッちゃんは今がして、血が出て、驚いて。  
「オッちゃん、こんなヒドいのが! ここよせん!」。医療班の人にいよいよ  
連れられていて。いじょに「ワニヨイ」に行けへんが、た...。

だから、きんない「テキサスがた」オッちゃんのぶんまよ!「ワニヨイ!」  
今も出でかけひだ。この人民パトロールで「おまえら、オッサン! やうせでしのや?」。ボリ公が私に投げつけたものは、私も屏め  
たりやない。私たちの人权を復讐して。私心して犯されただけやない。  
ガリちゃんも復讐した。みかんを山でオッちゃんを侵した。いつば  
「ワニヨイ!」、叫ぶ少女子を侵した。私をあつたがくしてくいたオッちゃん  
たちで。私が愛したいたいとは大切だよ思ひと。せんぶ"せんぶ"ニシレ  
化した。さうも今日も。いつだつて立ちはだかるジエラ  
ミンの盾の前。私は脱げぬうちに立たねば。○のアラスチ  
クの盾。奥にある。自立も"ききす"いらねば。○のアラスチ  
クの盾? あんたらか? おんばじ"人間"や? それでは?  
なで"ジヤヌヌン"や。おで"情めつけてるん"や? 仕事やからか? 好きで?  
私も選りつけられか? 制服かい? ヘルメットも盾も警棒もせんぶ  
が生身の「公衆便所!」、といふんか。武器も防具もどちらも無い?  
○やガリ公が"みんまが"みんま。あのゲレリがサイド非人間や  
とは。できるこども思ひたくない。けれど、やっぱ! 今はアンラが"憎  
い。私たちが"みんま"。私の大好きな大切なモノを虫ラバおにぎと  
したり。"落"や、"落"、"落"つけ。落つかれて。落つかれて。落つかれて。  
私は今日の落まで忘れない。私は、今日の怒りを忘れない。

1991.1.2. 三原公園ゆり人民パトロールにて...  
梅田まだ。若い私服。その他が"い"ました。  
私服をソレも含めて言い合ひしてゐれば、1人30代前半  
位のマスクと帽子の男が(私服です) ぶつぶつ言つてゐる。  
おたしも景が"た"れて、おじやドキドキ しゃがりも  
言い廻してた。○のアラスチクの盾と私服。その中にあつても  
"ブス"で言い廻して。肩をされつてまから"されまち! "。やがましい  
"皆"が"その後"に同じ  
私服に"公衆便所"でやりせでいわや?!! "といわれた。  
金は"帰つてひととお出でいた。先輩に歩いてたら違う私服が通り  
すぎた時"、やりせでいわや?!! "。自分が"ゲス"で言わせたことをかたつた。  
"何"で"恐りましい? 自分が"平氣"で言え3年かたつた。  
あはかへ"と"かしくて、落つかれて。落つかれて。落つかれて。  
ぶりかえし。指揮棒もたて...  
うまいこと書かねえやけど。どういふと"あつた"! ? 言ひたかたし。聞いてほしい  
思つた。1人の女のこの意見ですか? 1991.1.2. ①



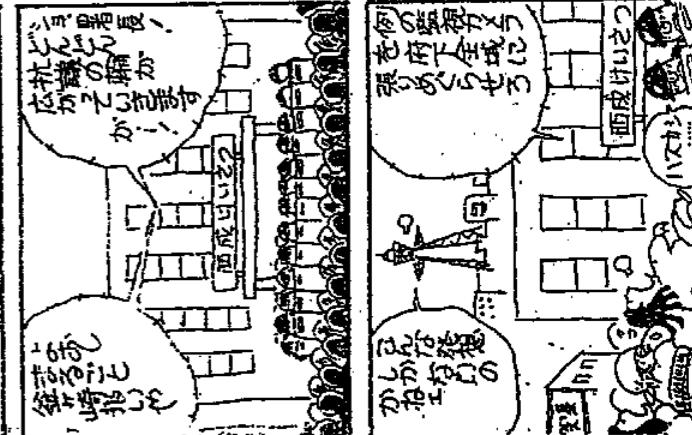
## 私反対宣言が市民に差別発言、大連発

毎年、高齢・病弱・労災事故等で宿を全くなられ、路上や駅の構内で多く成る、いぐる(行政病死者)は、西成区だけでも年間約500人。この冬も、そんな野宿者のうち、を守るために労働者を中心に多くの学生、女性、子どもたちが参加しました。しかし、ヤフザの活動を監視する行政は、こうした私たちの活動を監視する権力を傳えて弾圧しているのが現状です。

1月2日の夜、金崎梅田向のパトロール中に、大阪府警・西成署は練習して、私たちの行く先々を防害。そして、女性や女子高生に対して、卑劣な暴言をあびせてきました。「アス、チビ」ところ、「おまえら、オッサンにやらせてんやろ。公衆便所!!」さらには指をついて罵面につづく

## 第21回警察官の暴行行為を許さない実行委員会 謝罪と許諾

1月2日、金崎梅田向にて、大阪府警・西成署は練習で、女性や女子高生に対して、卑劣な暴言をあびせてきました。「アス、チビ」ところ、「おまえら、オッサンにやらせてんやろ。公衆便所!!」さらには指をついて罵面につづく



## 暴力行為の暴行！ 暴行！

「おまえら、オッサンにやらせてんやろ。じゃあ便所！」などといふ性的いやがらせ。怒った私たちが訴のまゝ上げ、「謝る」はしない仲間の一人を殴る石段から跳びだし、大阪府警の波の中に逃げこんでしまいました。

写真にテオ、カリ、監視カメラで私たちの人权を奪はれました。この日は暴言を吐いた大阪府警の爆写真を返しました。(①)席中の警察官に向かって、自然警官を西成署に逃げつきました。「あの私服がうしろでかくし、世の私服官に守らねばダメだよ。自然警官を出せ！」そのうの行為について、私たちの正当な謝罪要求について説いてました。



大阪府警がどうぞおめでた少年。侵入犯として腰袋をめざすがかりで腰袋をメタ打ちで殴りつけられた女性…。なんの武力行使か知らない私たちの声を踏みにじりました。一彼ら警察官が「おまえらにやらせてんやろ。公衆便所!!」といふ根柢にあるものは、彼らが日々このヨゴレ、「カミ」「カス」という言葉で私たち辱め始めた意識の力です。私たちがこの「西成署暴行団」たあつかいながらとしている金崎の労働者たちが、ちゃんとおもむかれて他にはいません。

大阪府警・西成署の暴行行為に謝罪し、遅延せずに差し出す! 写真の人間はすべて公衆中の暴行を許さない。許さない! おまえらの輪が止まらない! おまえらの輪が止まらない! おまえらの輪が止まらない!

**西成署に謝る! 許さない!**

## 情宣班『3日号外・4日日刊えっとう』について

3日号外、4日日刊えっとうの警官の女性差別、性暴力発言、そしてそれに対する抗議行動を伝えた文章に対して、それを載せた情宣班の考えはどういうものなのか、という声が越冬実会議の中であがりました。この警察の発言をきっかけにした動きの中でいろいろな意見が、対立が起こったこと、明らかになったことは確かです。その中で、今こうしてあらためて1月3日、4日の内容について自分たちの考えを出すのは、それによって自らの立場をはっきり出し、違いなら違いを、同じ点なら同じ点を、はっきり示していくたい、と思ったからです。

3日、4日の日刊えっとうに対しての疑問は、特に男性の側から、早い時期に何度も聞きました。例えば、3日のビラについては「あれは個人ビラとして出すもので、日刊えっとうとして出すものでない」という意見がありました。しかしそれは「越冬実で出すのはおかしい、個人でやるならかまわない」ということであって、自分たちが女性からあがった声にショックをうけ一緒に考えていくとしないで、むしろ「勝手にやってください」と、追い払うものでしかないと思いました。

それは去年の夏祭りで、日雇労働者からあがった「ぜんぶの差別におとしまえをつけたる」という言葉のあるTシャツについて、議論を充分しないまま「実行委として出すのは困る。有志でやるのはかまわない」と返したことについて、ある人から（入づてに）「それは弾圧でしかない」と指摘をうけた、そのことと同じものと思いました。

だから、3日のビラについても、4日のビラについても、それを日刊えっとうとして越冬実として出そうとしたことは、その意味で「間違い」だとは思えません。ただ、女性からあがった声を「うけとめて一緒に」という時、男性が、自分たちが「一緒」にできるのか、ということは全く別に、問われることなのだと思います。男性でつくられている情宣班が、女性差別を糾弾する女性の文章を自分の責任で載せるというなら、その自分の立場は何なのか、ということは間違いくつ問わなければならぬのだし、それは、女性からいわれた、「何で男がやれるのか」という問いに重なるものだと思いました。

一方で、3日、4日の文章について、女性から、怒りの声や、異議をきくことがありました。そして、女性差別に対する文章が出て、女性同志が複雑な思いをしていくのに、それを責任もって出したはずの情宣班が、ただ出しただけで、それだけじゃないの、といわれた時も、自分の立場から、文章の内容について、触れないわけにはいかない、と思いました。しかし一方では、女性差別に対する女性の文章に、男性がどういう風に触れるができるのか、普段まるで男性と女性とが対等であるみたいに自分の立場を問わないまま、語れているけれども、考えてみればみるほど女性のそうした文章に対して自分が何をどうして語ることができるのかということをあらためて思わずにはいられませ

んでした。

3日、4日の中で、読んでいて、これはどう考えればいいのかな、とひっかかったのは一箇所あります。それは、3日号外に関して、男性の同じような発言でも、釜の労働者と警官とが別様に書かれているところでした。警官の発言は越冬に対する弾圧として行われたのは確かだとしても、それは現実には女性への性暴力発言だし、それは、警官のというより男性の女性に対する性暴力発言ではないだろうか、そこでは警官と釜の労働者を全く別の立場とする理由はないのではなかろうか、と思いました。ただ同じ差別行為であっても警官が行う場合は警察権力の上にたって行うのだから一層あくどいと思うけれども、しかし性暴力ということについては我々警察権力の中にいない男性も、あの警官の差別、性暴力発言、行為と同質のことをしているのだと思いました。女性の側から、「警官のやったことだから抗議に行く、というのはゴマ化だ」という声がありました。それは普段、権力側にいない自分たちが、女性に対しては一方的な関係を作っている、しかも男同志がそれを批判しあい新しい関係を作っていくのではなく、むしろ逆になればいい的な共犯関係しか作れていないということへの怒りではなかったか、と今思います。自分たち自身のことを考えても生い立ちからいっても女性に対する肉体的、精神的暴力を強いてきたのだし、その関係から変わりえていません。だから同様に自分たちの日常が、そのまま女性に対する抑圧としてしかありえないし、それはこの1月2日以降の警察の性暴力発言、行為への抗議行動の中での女性たちとの関係でも思いしらざれたことでした。だから性暴力ということに対して、警官と自分たちとが違った立場にいるとは思いません。そして釜に居ざるをえない労働者と、自分たちともその点では同じ立場だとあえていいのです。釜に居ざるをえない人間と好きでやってきた。そしていつでも出られる人間とが、全く立場が違うということ、自分たちは釜に居ざるをえない人たちを踏みつけにしているということは確かに思うけれども“釜の労働者が女性にひどいことするのはそれだけの理由があるのだ”というようなことは絶対にいたくありません。なぜならそれは釜の労働者に対する一層の差別だと思うし、そういう自分の立場を差別の外に置くことだと思えるからです。ビラの中で釜の労働者と警官とが別様に描かれていることについてひっかかったのは、そういうことだからでした。けれどもビラを書いたのが女性だということ、もし男性が警官と釜の労働者を性暴力に関して別様に書いていたとしたら直ちに異議を出しだろうけれども、それが女性だということで、そのひっかかりを、異議とか“それは違う”とかいう形で出すわけにはいきませんでした。なぜなら一つには、釜の中での女性差別というより自分たちの女性差別が、いつも女性の側に女性差別について声を上げる時に、色々な抑圧や消耗を強いていることを繰り返し女性から指摘されておりそれに納得せざるをえなかったからです。いつも通じないことのしんどさや、返ってそれで攻撃をうける（「女性だって釜の労働者を差別している」でも、誰でも差別しあうこと求めのではなく、そこから変わっ





性暴力も受けたことがあることがあります。この二重の暴力が深いために、性暴力こそが、单なる暴力よりも重く、心の傷が深いのだということを、わかつて欲しいと思います。だから、「警察官の暴力行為を許さへん会」の名前は、正しくは、「警察官の性暴力を許さへん会」と考えます。

(上記のことは、越冬舟艇総会議中に、指摘しました。今は、

「警察官の性暴力・性差別発言を許さへん会」になっています。)

## 1月6日にまた

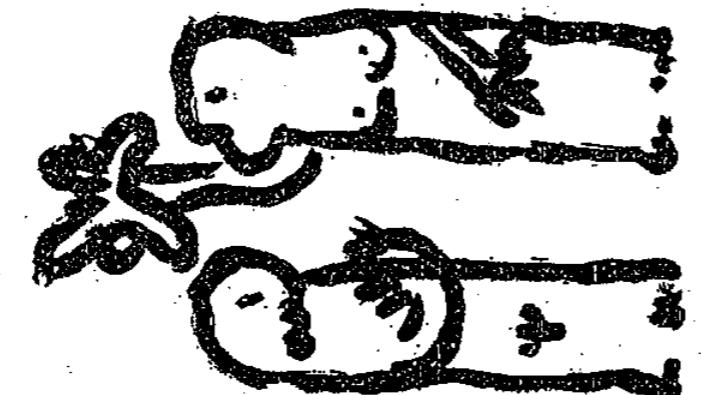
・警察官の暴力行為を許さへん会の女性差別ビラを糾弾!!

No.1 (1月6日のビラを許さへん会の女性差別ビラを読み下す)

カマヤン 人気110ト あらはす  
女性差別ビラ あらはす



わたくしたちは、このマンガはどういふと思っていながらたちです。  
① 3ココにカマヤンが「わたくしにまかして」と言ってくれています。男だったら、たまがいふねにあらがうと思います。だから、かんたんに「まかしこけ」と言って欲しくないいのです。自分だって、他の男たちと変わらない性差別をしていようと、自分で問いかけて



KOICHI EMURA 1990

て欲しいのです。

② 4ココは、ほんとうにひどい！

ほんと、ほんまの公衆便所が掲げられてはならないのですか。「公衆便所」という言葉は、女性そのものを卑しめていますか。女を「公衆便所」とののしる言葉こそ、女は男の言葉です。女を「公衆便所」ののしる言葉こそ、女は男の欲望のオバロとみられ、あつかわれてはいる「性器」=「公衆便所」にしかみていない、あらわれだと思いません。女は「性器」ではない、「人格」をもつ女性そのものとしてみて欲しいのです。しかし、このエコノからは、「公衆便所」を掲げるごとにやってやっぱり、女性を「性器」としてしかみていなかつたんだがあ…………。

\* このエコノの作者と、これをビラに発表したグループを抗議、糾弾します。

1月8日頃

(わたくしと釜ヶ崎④)  
次のページに続きます。

## No.2

No.1のエコノが批判的書かれた(わたくしと釜ヶ崎④)のビラをもつとふくらませて加筆します。

「公衆便所」とは、男たちが、「おの女は、だれにでもやらせある便器のよつばな女」と、女の性器を便器とすると、女を卑しめ、蔑視する憎悪表現なんだです。(他に、社会的には、もう「売春婦」を目指す言葉として男が使っている。)

4ココ目をみて、わたくしらたちの不快な気持ちは、「なんて、ひどい！」、「いやがみなんじやない？」と絶句、女の気持ちを遂なでされた思いで、怒りや憤りなどさや、悲しみ、絶望感のごちゃまぜの気分でした。「ああ、これこそ男たちの本性であり、女への見方・発想そのものだ」と感じたものです。

しかし、「警察官の暴力行為を許さへん会」のなたちも、このマンガの女性差別性に気づかないまま、梅田地下街でましてしまったことが、わたくしらを二重に傷つけたのです。1月6日夜のニュースで、TVのアナウンサーが、「このデモは、西がの「ありりん地区」で、警察官に支援官に抗議していつもデモ……」、というニュースで放送されました。東にこんなふうに放送されがビラの内容だったからです。

もうに「娼婦」といわれ、蔑視、さげすますので、「公衆便所」、「便器」あつかいこなしていお女たちを、日夜生活の中で、つれあいから、「私設便所」「便器」あつかいされていお女たちが、「あなたたちと、わたしちは違うわ！」と差別してビラをまいたのと、今回のことには何ら変わらないのです。どちらであらうとも、男たちが、わたしら女たちを「おまえらは 便器だ」として、モノ扱いしていおのになりないので。それが、どうして「許さへん会」の女たちと、こんなにも違つてしまつたんでしょ？か。それは、あのビラをつくった女たちの根底に、「娼婦」といわれている女とは違うわ！といつ差別意識が ひきんでいて、優越感といふ差別的なプライドがあつたんじゃなかいかと、思わず呟えがいわれます。彼女たちが、優越感をもつてしているからこそ、痛みを訴えていゐわたしたちを踏みつけ、差別する男たちと、今もししきに権力闘争をやってやけるのです。彼女たちは、本当に、痛みのところで怒ったんか！ 今もって、わたしらには伝わってこないんです。わたしら二重も三重も否定されつづけています。

今回の二点では、女たちが、自分のことを「私設便所・便器」として認識・自覚しているかどうかが、問われていいのです。この男社会では、男たちが、女たちを「娼婦」と「自分のモノにした女（妻・恋人）」を、巧妙に分断・支配していく構造があり、自分たちに都合のいい、性のほか口として使しかけているの

です。わたし女は、金銭的に「長期契約の私設便所」と「短期契約の公衆便所」との違いでしかないのです。わたしら、「愛している、なんて 甘い言葉でごまかさず続けています。男の性は、いつも、どこでも、どこでも加害者です。毎日の生活中で、つれあいと、事あるごとにケンカしているのは、このことにつきわめき・泣くのくり返しをしてるが、相手は、男女平等を、外に論理的に説せる「活動家」だったのに、信用も厚く、もっとも質が悪かった。「そんなこと小さな問題だ！」「なんで、そんぱに感情的ななんだ！」などなど、男から投げられる言葉の1つ1つに傷ついてきたのです。すごいケンカの後々でも、「愛している」と言う言まかしてセックスしてしまつ屈辱感……。対等を求める女でも、セックスだけは、男に「男性的」であつてしまいとわがうな側の意識の問題やら、さまざまなどを考えています。わたしら女たちは、「エロス的存在としての自己」(小浜さん)を見しつつ、女の自分を好きにならぶように変わつてゆきたい。そして、今回のことを通して、男たちに気づいてほしいのは、どんなに上手に、掃除、洗タク、家事をしたって、男は女に、性のところでは、いつもだつて加害者であつて、かれいど「便所」「便器」つかれしていることを自覚してほしいのです。いくら男女平等をうたって、家事労働をやってゆこうとも、自分の<sup>○</sup>の性ぬきに

ある女性差別争なんか信用できないのです。これは女たちも同じです。

コンガの中では、男が、ほんま物の「公衆便所」をキイの道具として投げる行為は、自分の「もぢ物」である男根も道具にしか感じられていいまいし、道具にしか思つていがい男の意識のあがわいでございديدة。〈男って、なんてざびしい性なんぞ〉

以下の、小浜さんの文書は、ここに答えています。

3月16日

わざと(四)



# 釜ヶ崎越冬小史 (10)

76~77 第7回越冬

6月14日の花園公園強制撤去のあとも座合を持ち込み、炊き出し再開、「仕事よこせ」の斗争拠点として維持されてきた。

7月1日、仕事保障斗争委員会を母体として釜ヶ崎日雇労働組合を結成。

11月15日、早くも越冬りんしの彈圧が開始された。公園局・大池商事・西成署は数百名の機動隊の動員のもと公園の強制立ち退きを强行、そして高さ3メートルのフェンスで公園を全面封鎖したのである。

炊き出し拠点を仏現寺公園に移し、反撃越冬の準備へと向う。12月20日府市に要求提出。

①特別公共事業を起させ、②釜ヶ崎に無料宿泊所をつくれ、③病人を入院させる、④仏現寺公園を越冬に使わせる。

25日越冬開始。公園のたき火をけずボリ公の弾圧、そして公園局の公園使用不許可という越冬りんし策動を打ち破り、一口三食の炊き出し、たき火を囲んでの野宿、毎晩二回の医療パトロールが行われる。

労働者と越冬実の分断に失敗した西成署は、

1月4日、暴力事件をやつち上げ越実代表を逮捕、17日には公園で越実メンバー1名逮捕、

24日、釜ヶ崎生協事務所をガサ入れ、居合せた越実1名を連行。なりふりかまわぬ組織破壊攻撃をかけてきた。これと連動して公園局は炊き出しをひどそうと画策する。1月12日、

西成署・大池商事・公園局による仏現寺公園の「実態調査」、そして24日、現状回復命令がすでに発せられており、強制代執行が準備されつりある事が判明する。

この間、8名の逮捕者を出しながらも公園での炊き出し、医療パト、不当逮捕料詳情等が続けられ、2月5日越実代表の保釈を勝ちとる。

15日公園局から代執行令書が郵送されてくる。内容は2月28日までに公園の仮設雨よけシート・たき火・布団等を強制撤去するというものである。ただちに大阪地裁に執行停止の申し立てを行なう。同時に公園では代執行阻止すべく防衛体制を組み、緊張の続く中、越冬も終盤をむかえる。地裁の決定が遅れたせいか、あるいは代執行の社会的反響を恐れたせいか、越冬終了日2月29日にいたるも代執行は行われなかつた。

期間中の炊き出し11315食、野宿労働者数のべ7710人、医療券発行495枚との代ほる。かくて12月25日→2月29日という長期

越冬斗争は終る。

しかし炊き出しはこの後も続けられる。

4月6日大阪地裁は仏現寺子ノト村撤去の代執行停止車両を却下、組合は即時抗告するも、市は翌日、高裁判断を待たず代執行を強行、花園公園に続いて二つの公園がフェンスにて封鎖され、今日にいたつている。

一、「日本最大の田舎い労働者の街に難民キャンプがある。テントも張れず寒空のなかで火にあたる労働者がいる。行政と闘い、暴力飯場との闘い、元請企業との闘いを力強く闘い抜いている労働者かい。ほかでもない日本

の釜ヶ崎萩之茶屋北公園がそこだ。他国で不条理や抑圧に正義の支援を送っている人々よ、自國の自分の足元も見よ。生きるにとすら許されない人々がいるではないか。生きる権利を獲得する闘いに支援を。テントも張れない日本の難民キャンプに支援を。殺人行政やその手先を許さぬ闘いの輪を広げよう」――1977年1月15日 人民新聞より

## 釜ヶ崎通信

1990.12.25  
越冬初日  
やがいな仲間たち

やがいのやがい。

和達「やがいな仲間だか」は、今年初めて釜ヶ崎で、冬をむかえます。和達「やがいな仲間だか」は、日本全国を上ツナハイクでかけめぐつておおかしな仲間だかです。

90年10月の釜ヶ崎暴動を「かけにして、釜ヶ崎をゆきだり、働くに、やあやむなし」とおこしてしまつた。和達はあの暴動の中、ケーナツ、ボートタイとむぎあいながらオヘ中が色々なことを考みました。それがまだ和達の中でも「ぶつぶつ」と燃りながら燃えていまます。そしてその中で釜ヶ崎はどうあつたかくつかがし、街ではないと感じました。あの暴動から何度も釜ヶ崎に足しげく通つてじますか、そのため釜が好きになつてしまはず。釜の「三浦公園ブティック」で「なんですか」との仕事はステードモーテルと、とびのチビでわ。) 走るぞ! と横からオヤチャンがひよーと「ハツカヤ」と顔のそかしてくるし、歩じてみるとほんとうに「やがいな」と「やがい」と「やがい」。と焼きもつともいふ。なんだ風やがいんねやがいぬない顔でもかえどくね。やがいは身やじや風、やがい

## 釜ヶ崎越冬にのりこむで!!

冬はもう始まつて!!  
釜をかんじるぞおー!!

ちゅう

びしょめは継いへるややがいと来がえます。その一方で、やあやんでもやだくだんあります。「釜ヶ崎越冬」をめざし、じいまと議論に闘つてやけるのだろう。何が出来んだろ。そして、自分自身をじいじめに回つあふづらか。

そんな想いや、「釜ヶ崎通信」で母さんからじっこじこじこと語がてうねます。口か、越冬に闘つる中で感じたこと、お心いに出来事をねじくおかい、釜の中に返してござだ。出来れば毎日出したいなあ……。

## 釜ヶ崎越冬小史 (1)

77.5.78 第8回越冬

77年5月認定支給額は2700円から4100に値上りする。しかし釜の景気は停滞、炊き出しを利用する労働者は倍増する。(この年は釜日労による通常炊き出しが行なわれた)

自分がアオカンするほめになるかも知れないという状況があつたわけです。

今、明日は我が身、アオカン層も仲間や、助け合って行かなかんと言つても、それだけでは、暖房のきいたドヤから出て来て、人ハトや、警備やろかという労働者はなかなかいないと思うし、もちつきや、ソフトボール、ロックバンドなどに参加してくる労働者の中から共に斗う仲間を育成していくという事も非常に遠いふうに感じる。

ではどうすればいいというのか。17年ぶりの暴動がそのヒントを与えてくれると思うのだが、敵権力に向って行くエネルギーと、仲間同志、助け合って行こうという考え方とは必ずしも合致するものでないと思う。以下次号(?)

6月柳井建設(大正区・人夫出し)で12名の労働者(出稼ぎも含む)が焼死。不況時の特徴である「タコ部屋半タコ」の被害者が続出する。10月アオカン労働者が自炊のふぐ中毒によりて4名死亡。いずれも30才代であり当時の不況の深刻さがわかる。(私自身もケタオチ人夫出し飯場に入つたりした)

11月21日ドヤ「新大阪」の火事で労働者2名焼死。「これ以上殺されてたまるか」の決意のもと越冬期を迎える。

11月20日越冬裏結成。11月30日秋之茶屋中公園(海道公園=西成署裏)使用許可申請に対し、公園局より不許可の回答が届く。12月13日突然公園が全面封鎖される。(これで釜の公園が三つ封鎖された事になる)しかし、炊き出しは市民館前で続行され、夜からは医療パトロールが開始される。12月25日越冬斗争突入。(この間炊き出し作業拠点となつていた野鳥の会(飛田方向)が、西成署・大家

のいやがらせによってガス供給が停止され、使用不能となり、喜望の家で行なわれる事となる)

29日南港臨泊の受付が開始される。ガードマン・機動隊の常駐、市更相での受付時の厳重な監視・選別が一段と強化される。市民館前での炊き出し、医療センター一階での布団しきを中心とする活動も年を越す。

1月4日大阪市糾弾斗争・臨泊・アウシユビツシ化・公園閉鎖を許すなり。1月10日、市の越年対策・宿泊所が打ち切られる。

臨泊での結核による死、医療センター一階での原因不明の死、行路病死、数多くの死者を出す中で2月にいたる。仕事は少しづつ出てくるも青カン者は減らず。

3月1日、前回に続いて長期の越冬は終る。今越冬中、多くの政治斗争に取り組んでいる事が特徴的である。11月28日、山谷・寿・釜島・釜の全国寄場共斗で、労働省交渉。1月29日、刑法・刑訴法改「正」・保安処分粉碎連絡会議結成集会(大阪部落解放センター)等。日刊えつとうの連日の政治記事内容に「カタクテ・ムツカシスギル」との労働者の声も多かったようだ。

冷メシ短信 1990.12.27  
①根暗のみさん

パチニコ・競艇・マージャン・勝利の女神に見放され、オケラになつたその晩は、一人淋しく湯を沸し、冷メシ茶漬で流し込む—冷メシ短信オーナー!?

私を知っている数少しが仲間、知らない多くの越冬に参加されている皆さん! 私は毎日酒と博打に明けくれている釜日労の三流組合員であります。

釜での日雇い生活も15年になろうとしています。越冬も4回目から参加しています。(参加しなかつた年もあります)

その昔 花園公園でテントを張つてやつた時は 今と比べるとずいぶんよかつたと思います。

以下老兵のぐちと思って読んで下さい。

ここ数年来、越冬斗争の過程で仲間を獲得する事がほとんど出来ていない。むしろ回を重ねるにつれて組合員が減っていく。越冬だけに限らず斗う仲間、特に現役層の仲間を獲得する事が大変もつかしい時代になっています。(組合以外の諸団体では違うかも知れませんか) 15年前の日刊越冬を見ると、明日は我身という事がよく書かれています。当時はいつ

# 金めぐ通信

1991.1.1 今がまた  
新年特大号

前の金めぐ通信1号を出したのが25日。  
松達が「金」に来たもう1週間にちました。  
そこでの間に感じたこと、感じたことを  
「金めぐ通信号外」として出すことにしました。  
金めぐ通信はいろんな所で出会って集まつた  
“ゆかひば仲間連”の中で書きたい事が  
ある人が勝手に書いていよいよピラです。

松達はこの「金めぐ通信号外」が

去年と今年をつなげて「うにづかは」

いいと思っています。



「おまえら 口だけや」と自分に言った。おまんじと言った。  
「言つだけばらばらでも生きるんだと言った。  
それは誰かにその通りだ。隣りの学生は「連帯するとか、  
「共有する」とかよくビラなどで使つし、自分も「共に闘う」  
とか言うけど、実はどうはずだら「共に」って何でいることには  
なるのか、よくつかつていいはじ。

けれど、もうひとつの壁からのは、おまんじの抱えている  
いろんな問題はおまんじの人たちのものだけではない。といつこと、  
自分が「支援」へ学生にもあるものが、いよいよ壁  
が崩れて出てきていますものだ。

それに隣して自分が「嫌だ」と言ってNPVのこと、それがしてNPV  
ことおたりませんか? となんたら3つある。  
それとも自分が「学生」で「労働者」だとが、行政の  
やるみにいたるテレセも自分であって、自分で壁をつくって  
いたら、それこそ壁の壁うがつだ。金に来てからどうだ? 金に来てからどうだ? 金に来てからどうだ?  
金に来てからどうだ? 金に来てからどうだ? 金に来てからどうだ?  
金に来てからどうだ? 金に来てからどうだ?

今どうか、よくどうかであります。

もう金にきて4日目だ。考ねることが決まりました。結局  
頭がぐちゃぐちゃ。  
「わっしきデモ」も医療相談もかいじ班で「おめじく  
作るもの初めこのことだから ほんかよく わからんことが  
多い。(など) 感じたいと思つから ここにいる。でも「一算  
何を感じたいんだ?」。まいにち 明きらかに  
時間がすぎていて、今日は寝じるんだけで。  
ちゃんと「ぶんの節」にとけこんでいるんだかはあ。かた  
はおんまり人と語すのが苦手で じぶんかと ほんまし  
ても、どこかでとけこんでいるみたい自分がいる。けど、  
ここにいるとみんなおまんじは壁が「あか」と声かけて  
くれて こなれたりして「ちゆつ」と語すことができる。  
それが おのずくと会話ちがわすます。じゆく! と金の甲斐に  
医療のトートーに行つて考ねた。ほんか、「金の甲斐」で  
いるひとおひの甲斐とくとくとが開かれてゆくとき合って  
ゆく匂さでかみじる。ほんか、「金の甲斐」でいる時、  
じぶんか、「人か」暗闇の中で息をしていまかと。私は  
気ががす! 行ってしまうんじやないかと おどえてます。  
それは、何が今、考ねてます。おまんじ。1991年=  
なつてしまつた。11月まで、頭ぐらぐら。しかしながら、  
がんばったあとと。

ちよ



12月 6日

うらめしき雨。  
位 9時すぎに 一日元気良くおさんでいて娘が "しんどい  
しんどい"と言ひだしたかと思つとゲロゲロ吐いてしま  
パトロールに出来ばうかどうか迷つてしましました。  
おと少し落ちついるので、おかあさん行ってくから  
ねてほきねとおしゃかうと "うん"と言つてくれたので、  
決して出かけました。

9時半少し前 もう集まつてゐるがなと 雨の中を自転車  
を走らせ、三角公園を遠くから見ると 前き火と傘が風込んで  
いました。センター前に着くと、人は少なくて、ふとんしきが  
始まつたとしていました。まもなくNさん、そしてリヤカー  
を引いてMさん、Bさんがニコッとして、我が家を確認し  
てくれると、ちょっとモヤモヤしていました。仏壇寺公園までの水道  
まいまで、人民パトが埋くなつてゐることで、10時10  
分前にまつても人びつかなく、10時もまわつた後來、人が  
増え始め、少しおととしまして、仏壇寺公園までの水道  
へ向けて帰りに オアズ住宅の下の自転車をさげて、ひと  
つのオッチャンが何をかげすに横になつてはるのが目につい  
たので センターまで行って休みませんかと声をかけようと

行きたいと言ひ来るのだが立たへず、他の人々を呼びに行つま  
した。病院にいたと、出てきたと話しています。たいたと、どこ  
の病院に入つてすたののか、どんが本調査など聞く余裕があ  
りましたでした。

今夜は自転車で回るコースをMさんと徒步で回りました。雨  
で、寒てお人は少ないようでした。Mさんか、せめて下ぎ下  
で寝てくれれば、丁寧いいのにねと、回り始めたがソノと言  
つてました。三角公園で他のパトの人たちと合流、またまた  
りで自転車コースを歩きながら 家族のことなどと話しました。  
花園公園の障壁の建物の軒で ひとり寝てはって、私は見て  
て "こんばんわ"と声をかけてしましたが、Kさんは  
体にかけてある毛布にさわって雨がしみ込んでいるのを確  
認してから声をかけ "ここでいいですか?"と話しかけてい  
るのを見てハッとしてしまいました。なんでもいいから声を  
かけて起こしてしまったね 反省しました。  
南海ガード下、センター西側下も、きっと他のパトの人が確認している  
はずだから声かけんとこじり腰には、やさり手と状態を知つて  
いるにこんやうだと思いました。  
パト後の一葉糸。みんなばっしゃりおれそぼって、でも誰すべ  
に集中していました。雨のためセンター下はもうあふれんば  
かりの人でした。Kさんより、パトが始まった25日以後に

1990年1月6日

3人の人の死が確認された話がありました。みんなで黙と  
しました。バスの後で引ちつていて、すぐよつた人のこと  
をKさんかかみしめさぶらに話しては、たのが、雨とい  
つしよに 心の中にじわじわと しみ込んできました。  
心身共に それにこってはしんどい重い3日のパト。でも  
パトロール出発前に見せておられた山田真さんからの手紙  
は、また元氣ださうと感動させました。

(さつき)

西がに引越して来た時から "金の越えに参加したいば" とい  
う想いを持っています。子もが小こがつたがら、雨氣  
のう方に年末年始が過ぎてしまいました。だから毎々、理由はいく  
でもあるのですが、今にして思えば、自分の鏡の鏡工、行動  
力の無工のせいで、年月を虚ごしてしまいました。でも、よ  
うやく一昨年の12月、息子佐々木トロールに出て来ました。  
始めてのパトロールに、タク興奮気味で、警工も手伝つて足  
がザクザクしていただけます。三角公園のそばのゴミ袋の山  
の影に映つぶれたがっちゃんを見つけた息子の声と、最初  
はイヤヤと言つていたのに、最後には医療セニアに行く事  
になりました時のこと、とした様にして、何でもよく聞いてしまつた今  
日二の喰はなのに、何故かとてもよく憶えていります。そして、  
三角公園の片隅で、ぬれた毛布に横たわつて いる人に、誰か  
が "こんなほどここで、横てたら死んでしまうでー"の声に、  
"死んでもええから、ほっといてくれ"の答え、言葉を先つ  
てしました。それでも、他の人達は慣れているのか、そ  
れなりの対応をしていましたが、私には、ここでカントックで  
した。その後のパトロール中にわ、何人かの育かんの人の口  
から出了した"死なしてくれ" "ほっこり"の言葉には  
さすがにもよく立ちつくしていただけの私、何が出来るのだろうか。運命は初  
体験でした。

1月6日

今年は息子達の1人での参加。外まわりもあったので、各々少ない人数で逛った。

昨日の海田での人民パト中の警察による「公衆便所」等、せ性差別発言に対する西成署への抗議行動のため、連絡にてさん出て、ここあと二日道路をう回せやらねば。ひみ合ってケガ人も出た。ねほんのは、つい警察やつたら言うわなあ所で思考が止まらなくなってしまった……。

セニター前に帰り着いてみれば、近くの車の下で、高いビルをひいて轢ていいき人が、もうダメかもしれない、反応がほとんどない。と救急車を運ばれて行った。幸運にも富永院外病院へ。心細くも一人で何とも行って彼女が帰ってきて離してくれた。救急車の人が新米で、ほかには見えんで、新院の看護婦が今日がこの病院初勤かなので、お手げに着、越冬に来ていたのあさ人。“低血糖症らしくて・助かるかもしない”との事。待つていい時間、自分のしていい事とは、この人に比べてかけいな事なのではないだろうかという想いが湧えなかつたが、でも、やはり自分のかかわった人が死むはないでほし

いという気持ち大きくあった。

幸運ヒーラー言葉を先に使った行動と、“人の生死死に”に、永遠に何ができるだろ？、永遠の半の面せない事ばのだと思つた。でも、やはり、ヨケいな事、その人の望んでいない事がちしだらに行れど、助かつてほしいと思うのです。

河瀬田

1月6日 雨あがい)

夕刻、ヨリ雨がふつといF-02"どうぶよだに3かとえづがついていた。ヘトロールが始まるころにはやんいでいた。おつかは尼尾。なぜか？ 野宿している人たちはどうがんばるの？ とにかく、雨の中を自分が歩かれて歩くのが嫌だからだ。自分のことばかりを考えて自己のことぐらい自分でやっている。ハトロールじや医療相談をやっている時に、いろんな人から「ボランティアか？」と聞かれる。ボランティアとは奉仕とかいう意味だ。やくさんじやねえよといつぱりやい悪いが”いつもひびきた。「えらいはよ」という人もいる。でも、先日、医療相談をしていつもからお前は前にやかこなかつておれたらえんじしてやつて、態度がみえみえなんだ。俺EJ-Nにやつてみづからにあんたが見えるんだよ。おんたから、おまほ小うに俺たゞ見えてんだよ！」と言った人がいい。違うから見てゆがんで「おまほら、いんちきだろ、僕よく知ってるんだ！」と怒鳴つたが、いた。やくだよ、やく連れだよ。權力に比せば圧倒的に無力EJ-Nは「タオチHPの先棒をかついたり、中途ハント=レーダー人に期待をいだかせたりしてよけい悪い方向にもつづくことをやらない。それには必ずも僕自身、人にあげてあるのも、このいふことをしながら、人からもたらしておおこぼが圧倒的にならぬ。でも、必ず手元にいれときで“おおこぼは自分ご知らずもないでよ。」「おおこぼはいよいよかかれてるつもりです。

むい「悪い」とはなる。うしろめたい事をして。ひどいえらい」とが、F-02"とか表面的にはかられることをしながら、実はしてあげてると思われるところだから、いそんばものともらひ、うばって、自分の人生のかかってLEI-Y、悪くいえば“利用してりして最近はとうにす。

自分はいま、ロンブンでのを書いている。少しも1月6日までに出して、あるといど出来が食がだら上にのまづ、後3年間自分の生活は保障されることはわけだ。さて、ロンブンは野宿している人たちや金45歳にいる いそんば人たからもらったもので、出来てきただけだ。こんなにも大きくてたくさんのフルセードをもらいつながら、それはが返していいける自信は今、まだない。山田真さんの文章によると、研究者たるのも医者のよがむかだなどと思った。いや、はあすともできはい。しかしもしかしてきただけだ。こんなにも大きくてたくさんのフルセードをもらいつながら、それがまさしく、ギョーゼキといわゆる生活を上がりみがら、C"ttaがきまわしてしまった。C"ttaは、と、て道當にくみあわせて、ギョーゼキといわゆる人をふみかねて、自分だけえらばって、やかも自分の方でばかに思つて、ギョーゼキといわゆるものもいたが、人々のT-daxにたまつにもので”どちらとしてお、金ももうけの自分をおろいど”からしてお、金ももうけの自分を立つちんが！ 自分を立つちんが！ どちらとしてお、金ももうけの家族をつくる。どちらとしてお、金ももうけのふくに自分に立つが！ どちらとしてお、金ももうけの役に立つがのや、

考え方などを考へながら、私はケンキウでの話を続けゆくよ。

生活のためやと思へし、ナマケモノで不景、ちよな自分においてるところと思へる。なんせ多くの人々をぶつけにして、お来るがてる社会だから、工工思ひを自分ですましともあらもしくんげど、せめて、うしごめにさはしたくない。それ出来るら、お社會の中でも、自分の生活の中で解いているといふ気持ちになりたい。そしてねがわくば、いろんなものをくつた人々と「共に」と出会いに行くけど……。

「共に」「一緒に生きたい」というもじかじか フソンはわねびい。このねがいが今の自分の工ネギギーにならうといふと思つ。

いろんば意味で。

朝が、ふかせいか今夜はあに下がかった。越冬セミミとがあるせいか若い、新らしさの人から今夜も下さんい。やみ中にあけて、自転車にのりながら、いやにも知つてみれば、「みてた」がうなづいて、いる自分が「ちえみかねば」えがつぱい。また「2年目で」しかばいのに、でもね、特にキリスト教の人はそりがなかなあ。特に「はじめて」をE=ふくらはんたちに、すくに「善き者」を感じうことがある。これから「ためにはうれしい」という意識」が「ゴウマンド」と思うが、最近、ハナについてしうがだい。だからそういう人は、今は、今自分は、いささか「つづけられどんびり感度を示していふと思つ」。

しつかがりした娘はやつ、23歳にみえて30歳うつだ。

最後のまとめの時に一緒にいた人が「山王の木は金ヶ崎から離れていいので、日々自分が行き届かないか、じ苦しいといふ意見がおな」と言つていて。ううんいかもといふうにうなづいて、人がいて自分はやだった。目はどうにもゆきとどかなし。野落してる人らももしかしたら、ビ深い傷の奥まで見えたがい。いかがわよがはい自分。少しづつ少しづつ「共に」おると出会いに行くけど……。

「金めし通信の2号が出た。すごい良い。ものすごい素直な気持ちを感じる。彼らみたいにいろいろはものを見たい。したい。学生実とウマが「あわはいらしい。そりやそりだ。あつ」と

おみ玉

## 越冬思想文

「なぜ、学生が釜ヶ崎と関わるのか?」「学生としてしか釜ヶ崎と関われないのか?」  
今年はこういう問い合わせが越冬期間中になされた。

今年の越冬は結構学生や若者が沢山やってきた。これは、やはり10月暴動がおこり、若者の関心を引いたことにある。越冬実として動く若者は今まで学生中心という感じがあったのだが、今年は学生じゃない若者が越冬実に沢山参加した年であった。

今まで(特に私の大学では)学生が越冬に参加するのは、学生は資本主義社会の頂点に近い抑圧者だ、だから越冬に参加し、労働者の生きる斗いに連帯し、今ある社会を変革していく、なんて考えていた。(私はそういうふうに考えていたし、今でもそう考えています)しかし、それって学生のごうまんじゃないのか、という提起を受けた。なるほど、そんなに学生がいやなら学生をやめたらいいやん! 学生であるなら、卒業したら一応就職できるのであるから、釜の労働者と関わりあいないと言い切ることも出来るし、多くの学生はそうやって割り切って生きている。

☆—私は文章を書くのがきらいなので、いきなり結論に行きます。—☆

私は、学生として来年も越冬に参加したいのです。そして、年間をとおした釜との関わりも学生として関わることにします。私はやはり大学で勉強したいし、大学にいる学友とも関わりたいのです。学友と共に我々の生活がいかに釜の労働者をふみつけていった上に成り立っていることを知り、そういう社会を根もとからゆさぶって行きたいのです。と同時に釜ヶ崎の労働者とも、もっと一緒にいたいのです。釜ヶ崎の労働者が釜で生きる斗いをしている中に、少しでも支援できたら…と思うわけです。そこで、学生である私が釜ヶ崎に関わることによって、学生と労働者の分断が少しでもなくなればと思います。だから、「越冬に参加しよう!」と私は多くの学友に声をかけているのです。

なんか、忙しいで書いたんで無茶苦茶になりましたが。



## 釜ヶ崎越冬小史 (12)

78~79 第9回越冬

十一月二十五日 (火)

来年も来たい。

寝る場所をうばわれているのが (フェンス) 現実のものとして分かった。  
ネル場所をうばうイヤがらせの実態がよく分かった。  
相変わらず野宿者が多い。  
行政が悪い。

八十六年や八十七年に来た時は南海のガード下でアオカソしている人が  
大勢いたのに、フェンスやロックのへいが出来てからは、アオカソし  
ているひとの姿が減ったような気がする。皆、地区外に追いやられてい  
るのだろうか。

八十六年や八十七年に来た時は南海のガード下でアオカソしている人が  
大勢いたのに、フェンスやロックのへいが出来てからは、アオカソし  
ているひとの姿が減ったような気がする。皆、地区外に追いやられてい  
るのだろうか。

十一月二十七日 (木) A.M. 2:50頃

仲間から連絡を受け医センターまでゆく。

見たときはすでにぐられたあとであり戻し入れてある時、同志25  
3人はにげてしまい見付からず (内2人レイ駐)。

くちびると腔内を切っている様子だった。本人は『手帳と現金をもひ

れた。手帳だけはなんとかしてほしい』とのこと。

・仕事よこせ、病氣の仲間を入院させろー

・政治反動と戦争への道を打ち碎けー  
12月22日、海道公園・花園公園・仏壇寺公園  
が施錠され、再封鎖、越冬つぶし攻撃が始まる。  
12月16日越冬斗争支援連帯集会  
・釜ヶ崎差別治安弾圧を打ち破れ！  
・日雇労働者使い捨て「行路病死」を許さん  
訴され越冬期を迎える。12月11日、一時金支  
給時、越冬カンパ67万円集まる。

1月4日大阪市に対し、殺人行政糾弾斗争、  
その後、南港宿泊所で、面接を要求。仲間の  
隊列に機動隊がおそいかかり、越東委員長と  
労働者1名、「建造物不法侵入・公妨」で不  
当逮捕される。1月6日に2名釈放。

1月7日、医療班・キリスト教越冬委員会に  
よる病院訪問。14名中13名が結核で入院、羽

十一月二十八日 (金) 医療班

労働者と話していくシノギに会ってみると

年より多いのでは、と感じた。

越冬参加も十回目になりました。医療パートでは始めて『アオカソ者駆逐

』のための地域のイヤガラセ (フェンス、水まき、自警団) が田につい

あが初めて、経済大団日本の裏の世界を見たような気がする。

十一月二十九日 (金)

何も道具を持っていない人にセンター前にゆく様子をかけたが実際には

シス、鉄条網を設けていて、アンカン者のしめだしを徹底して行ってい

りと回り、労働者と話せる時間がほしかったよーと。カクニンしなかつた

よー』とか、そんなふうにいえばよかったです。もう少しゆっく

コトを反省。でもそれ以前に出合った野宿者の数がとても少なかつた

が気になつた。以前に出合った野宿者の数がとても少なかつたの

鬼野病院、阪奈病院、島田病院、相原第一病院、いすれも設備・診療体制・食事等、不充分であり、医療行政が「金もうけ第一主義」の民間病院に委託・依存し責任転嫁している結果である。「釜の近くに釜の労働者が入院・療養できる総合病院を行政が建てる以外に問題の解決はない」と訴えている。

(日刊越冬1月8日号)

1月31日、2月8日、医療センター前で青力量者のアンケート調査が行なわれる。調査項目は多岐に渡つて、年令は40代が最も多く39人・出身地は、大阪が14人で一番だが、全国各地から釜にきている。釜での生活歴は10年前後が最も多く・職種は土木が多く44名等々。

2月6日中島組斗争の逮捕者2名の保釈を勝ち取る。整備班・医療班・炊事班等、多くの仲間の努力で越冬も終盤を迎えるも、死者は3名、シノギの横行もあり、負傷は多数。2月27日、日刊越冬2月27日号では、県営中央病院でのリンチ失明事件が報告されている。釜ヶ崎差別・精神障害者差別に基づいた保安処分の典型であり、精神病院のタコ部屋体制、患者に対する露骨な暴力支配管理体制の結果、被害者は、歯を折られ失明させられている。越冬後の課題として、保安処分攻撃粉碎の斗いが提起された。

2月28日越冬終了、焼き出しは回数を減らし通年体制へとむどる。

十一月三十一日(月)

毛布をもう少し多く持つてゆくとよいと思う。

雨のとき特に暖かいお茶を渡してあげたい。

九十一年十一月三十一日(月)

声をかけセンタードにゆこうといつたけれどもかかない人がいた。

今日、事務所の常駐での時ぐらに事務所について、買って来た弁当を

うとしていると血相を変えて学生2人がやって来ました。『ことじゅうじゅう』私は3Fの男性支援部屋で常駐しているつもりだったわけ

九十年最後の最後までどうしてこんなドジばかり!ノートに書いてし

迷惑かけてすみません。私は忘れない。柳

一九九一年一月一日

金内とちがつて孤独でいる人がいるので何があったとき心配。

労働者団らがなけなしの金をカンパしたことなどない。

政の対応何ともいえない気持ち。昨日に比べて布団があまつたのよかつた。常にかかわっていきたい

金内とちがつて孤独でいる人がいるので何があったとき心配。

労働者団らがなけなしの金をカンパしたことなどない。

昨日に比べて布団があまつたのよかつた。常にかかわっていきたい

金内とちがつて孤独でいる人がいるので何があったとき心配。

労働者団らがなけなしの金をカンパしたことなどない。

昨日に比べて布団があまつたのよかつた。常にかかわっていきたい

一月三日

医療バト

弾する決意をあらたに初めての参加だった。まだまだ野宿している仲間がいて行政を徹底糾

効力よ、ただちにひきさがれ、最初勇気がいったが怒りがだんだん出てきた。

は最後まで日當と共に斗うぞー、市当局はただちに労働者を保護せよ我々

路上で寝ている人の中たものすごい孤独をかんじた。もう少しごろりかけて

私服の異常な数の多さにおどろきを禁じえない。怒りが腹の底からじみ

アオカン者に対しても冷たい町だという印象をうけた。どこでもそ

うなんだらうけれど、今日特いろいろのを見てもう思つた。

一月六日

寒いから何があつたかいものをもつていてあげたい。

天博でおいたてをされた人の話を一番頭に残りました。

この冬初めて來たので何もかも勉強です。

## 釜ヶ崎越冬小史

79 - 80 第10回

11月センター開所以来最高の求人数に建設業(公共事業が主体)が9割をし造・運輸は激減。

12月14日越冬斗争支援連帯集会、

「越冬斗争は資本と国家権力がもたらす釜ヶ崎の冬地獄の中で主要に高令病弱「障害」の仲間が、「行路病死」攻撃をかけられる事に對して、差別分析を打ち破り仲間の斗いに結合する中で「1人たりとも仲間から死者をだすことを許さない」決意の元に取り組む斗いである。」——基調より——

12月25日海道公園での1日3食の炊き出し、医療センター前での布団敷きが始まる。

12月26日結核問題で西成保健所・環境保健局に要求書提出、交渉をもつ。釜ヶ崎被爆者の会・釜ヶ崎結核患者の会・キリスト教釜ヶ崎越冬委員会と越冬実。当局側は釜の結核をなくしていくこうという姿勢にはほほえむ。

12月28日夜、布団敷きの為医療センターに移動中「違法子モだ」と1名不当逮捕。(30日、完黙で釈放)

29日南港臨泊受け付け開始、当口は400名入所。市相の差別的な窓口規制と、臨泊の治安管理体制は去年と変わらず。

1月3日団結もつとき大会、

5日山谷越冬実より、緊急連絡が入る。神奈

川県の大井臨時収容所(釜の南港臨泊にあるもの)での斗争で6名が不当逮捕、200名の労働者の結果で都庁、山谷対策室を包围・糾弾テモを敢行。(当時山谷越冬実は山谷労組、山谷統一労組、6・9救援会の4団体で構成) 23日中間報告集会、市民館に130名参加。山谷口労組の仲間の斗争報告、全障連のアピール、2月末まで越冬實線対立が発生、後に訴訟継続派が別組合(現釜ヶ崎地域合同労組)を作る事になる。内紛の反映か、2月中旬で越冬は打ちきられたらしい……私のファイルには「日刊えつとう」2月4日号までしか残っていない。

さて、1月中の「日刊えつとう」には労災シリーズが連載されています。労災にあつた場合の手続・治療・休業補償等、じつにくわしく書かれています。労災の法律知識はくり返しくり返し情宣していく必要があります。

1月6日・17日の2日間は文化体育班によつて、「かまがさき」ともよこちようが催されています。越冬中に子供を対象とした行事が行なわれたのはこれが最初だと思います。越冬と子供という視点は次回越冬に引きつがれていくのでしようか。

## 編集後記(N)

何でこんなに時間がさかれなければならなかったのか…  
こんな体制ではあかんっと思いつつ…  
本当に多くの仲間に御迷惑をおかけしました。  
そんな反省を具体的に出し合って今後の実行委体制、とりわけ  
次期夏祭実からでも返していきたいと思っています。  
つまる所、人間関係=信頼関係=責任関係があげられます。  
どこに自分という立場があって共同斗争、支援関係が成り立つ  
のか、各々の運動における関わり方があると思うのです。  
そこらへんから覗いていきますと、実行委体制自身が責任者を  
作り出す関係ではなくて、あたかも自分が主体であるかのように  
振る舞うものだから、全くカジの取りようがない運営を余儀  
なくされてきたといえます。このような体制で起きた諸問題も  
3~4年続いている。責任者に対して、統括する姿勢が全体  
になくて、俺が私がで進むものだから、おさまるものもおさま  
らないで分散するばかりがありました。

釜の主体は釜ヶ崎労働者であります。運動体の主体が、運動を  
担う仲間であり責任を取る指導体制であります。そんなわけで  
一人ひとりの立場が当然あります。自分は何者なのか、何ができるのか、そんな一人ひとりの力を出しきる方向で団結を深め  
ていきたいと思います。

人間関係が不成立なのは、利害関係とか価値観の違いで分ける  
のではなくて、違いをはつきりさせることをもって自分の役割  
を果たしていくべきだと思います。

(1991年7月)

一月九日

### 医療パトロール・山王方面をまわって

野宿者の状況はほとんど変わりがないが、変わらないこと自体が異常なことであると自戒する。もしこの方々が社会の不正に対して、本気で立ち上がりつたらすごいだろう。マルシェの手前にいる女性にあうと、『どうですもつらいが彼女はもつとつらいだろう。布団も何もいらないというふうにその参道周辺で寝ている人が私服警官におだやかな口調で次のように頼まれたという。『向こうはすごく警戒する。しばしば男性に頼まれたという。『今日はえびすの日なのだが、いくつもつらいう』その人は納得しないまでも、無用な対立を避けるべしを確認しておきたい。差別的に野宿者を排除していることは変わりがない。そのこ

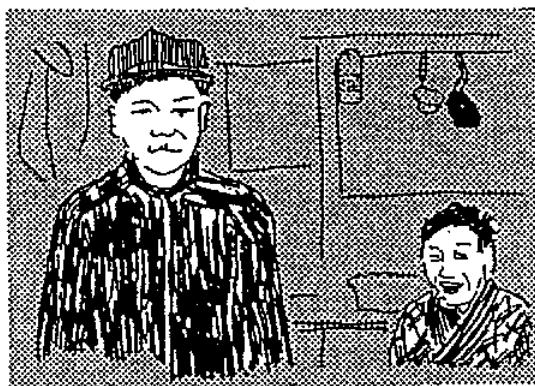
### 総括集に向けて

酒とギャンブルのあい間にやつと小史第10回  
越冬まで書きました。11回以降は次の機会に  
書く予定(?)。私事で恐縮ですが、越冬中に  
書いた私信「冷メシ通信」の2号を期待する  
声が少なからずありました。当時問題にな  
った女性差別事件について感想を書いたので  
すが、ギャンブルで儲けて飛田に行こうなど  
と不埒な考えをしている者には発言権はない  
と思い、やめました。きれい事ばかりではない  
が、飯場の精算日に「飛田直行や」という労  
働者がいるという現実をはつきり語る者がい  
てもよいと思つたりしたんですが……

越冬

橋安純

一年に一度	仲間が集まつくる
俺たちが主人公	
公園でたきびをたいて	俺たちのために
オマワリは追い返す	芝居をやって
	映画をやって
公園のすみでひっそりと	炊き出しをする
地下道のはじでひそやかに	
橋脚のしたでひめやかに	俺たちのために
アオカンしていた俺たちが	たきびをもやし
	布団をひいて
たきびを消防団に消されたり	アオカンする
アッチに行けと住民に追われたり	
オマワリに不審尋問をされたり	燃えるたきびはアカアカと
そんなことをされていた俺たちが	俺たちの顔をてらしだす
	手をかざし煙に目をほそめ
一年に一度	ほてって紅潮するホホ
この越冬で	
公園を占拠して	しわのきざまれた顔
オマワリは追い返す	疲れきった顔／眼たそうな顔
	すすぐまつ黒な顔
一年に一度	
仲間が集まる	そんな俺たちを
労働組合の仲間が	いくつものカメラがねらってる
大学生の仲間が	一年に一度／俺たちが主人公
ふだん会うこともない	
若い青年や	
インテリや	
女の人が集まる	
一年に一度	
まともに	
俺たちの話を聞いてくれる	



発行日

1991年8月1日

発行

第21回釜ヶ崎越冬闘争実行委員会

大阪市西成区萩之茶屋2-5-23 釜ヶ崎解放会館2階

06-632-4273

価額

700円